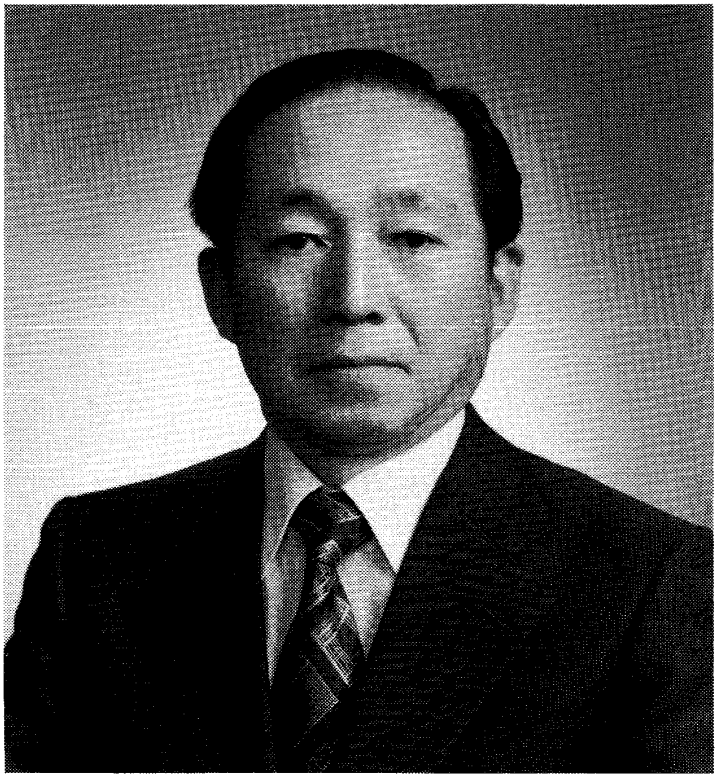
SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

岩橋 徹, 木宮一邦先生をおくる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤吉, 瞭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00000291



Toru Iwahashi

静岡大学地球科学研究報告　17　(1991年7月)　3頁～7頁
Geosci. Repts. Shizuoka Univ., 17 (July, 1991), 3-7

岩橋　徹，木宮一邦先生をおくる

岩橋徹教授は1991年3月31日をもって，停年退官されることになりました．また，木宮一邦教授は同年4月1日付けをもって常葉学園短期大学に学長として転職されることになりました．

岩橋徹先生は1965年に九州大学より静岡大学教育学部に転任されて以来26年間，地学教室の教育，研究の充実と発展のためにひとかたならぬ尽力をされました．先生は自然災害の分野で多くの業績を挙げられ，そして14年間にわたって日本応用地質学会の評議員として学会の発展に尽くされたのみならず，就職委員長，学生副委員長，附属小学校校長等の要職を歴任され，教育学部のためにも貢献されました．

先生は以上のような活躍に加えて，何よりもその円満な人格は多くの学生を引きつけ，多くの教育者を送り出されました．また，他学部の地学教室と長年にわたる親密な関係は先生の人格によるところが多大であったと存じます．ご退官後は静岡に定住されると伺っておりますので，今後とも地学教室ならびに県地学会に対して，引き続きご指導を賜りたいと存じます．

木宮一邦先生は1971年7月に静岡大学教育学部に赴任されて以来19年9ヶ月間，地学教室の発展のため教育，研究に尽くされました．先生は豊かな発想力により自然災害および岩石風化の研究で多くの業績を挙げられるとともに教育学部の運営に関しても教務委員長，就職副委員長として同じく豊かな発想で活躍されました．特に総合課程自然環境教育コースの開設にあたっては中心になって努力されました．

学長として赴任された常葉学園短期大学においても教育学部で発揮されました才能がますます開花され，ご活躍されるものと思っております．

教育学部地学教室を背負い，リードして来られました二人の先生が同時に退官，転職されるという大変な事態に遭遇し，残されたふたりは，途方に暮れてしまいました．今は，4月から赴任された小山真人教官と10月にはお迎えする方と共に，両先生の築かれました基礎の上に，新しい地学教室を築くべく努力する所存であります．

岩橋先生の長年の地学教室への貢献に対してささやかですがここに記念号を出版し，先生に捧げたいと思います．

1991年4月15日

教育学部地学教室
藤吉　　瞭

岩橋（いわはし）　徹（とおる）先生略歴

昭和2年9月4日　アメリカ合衆国，サンフランシスコ市に生まれる
昭和9年9月　ジョージピーボディスクール入学
昭和16年3月　福岡女子師範学校附属小学校卒業
昭和20年3月　福岡県立中学修猷館（旧制）卒業
昭和20年4月　福岡高等学校（旧制）理科甲類入学
昭和23年3月　福岡高等学校（旧制）理科甲類卒業
昭和24年4月　九州大学理学部地質学科（旧制）入学

昭和27年３月　九州大学理学部地質学科（旧制）卒業
昭和27年４月　九州大学大学院前期課程（旧制）入学
昭和29年４月　九州大学大学院前期課程（旧制）中退
昭和29年４月　九州大学理学部助手
昭和37年３月　理学博士の学位授与（九州大学）論文名「“佐世保炭田”炭の石炭化度の地質学的研究」
昭和39年４月　九州大学教養部講師
昭和40年４月　静岡大学教育学部助教授
昭和45年６月　静岡大学教育学部教授
昭和45年10月　教育学部就職委員会副委員長
昭和48年４月　教育学部学生委員会副委員長
昭和49年７月　静岡県温泉審議会委員（12年間）
昭和51年６月　日本応用地質学会評議員（14年間）
昭和51年９月　文部省在外研究員としてアメリカ合衆国へ出張（１年間）
昭和53年４月　教育学部就職委員会委員長
昭和53年４月　九州大学理学部講師（併任）大学院理学研究科（担当）
昭和55年４月　静岡大学教育学部附属静岡小学校長（３年間）
昭和56年４月　静岡大学大学院教育学研究科（担当）
昭和61年８月　地すべり学会昭和62年度総会第26回研究発表会実行委員長
昭和63年４月　教育学部紀要委員会委員長
平成元年６月　静岡県地学会会長
平成３年３月　静岡大学教育学部停年退官
平成３年４月　静岡大学名誉教授

業　績　目　録

著書

(1)　フォサマグナの新第三系，静岡県の地質，５Ｂ，pp. 45-53，
付図：１／20万 静岡県地質図．（静岡県）昭和49.3

(2)　静岡の地学，「日本列島の地質のなりたち」　pp. 21-26.
「赤石山地，概観，地形，地質」　pp. 217-232.
「中央構造線周辺の地質と中央構造線の発達史」pp. 401-426.
静岡教育出版社．昭和53.10

論文・報告等

(1)　北九州古第三紀層の地質について．特集Ｉ　日本古第三系，日本地質学会年会討論資料．有孔虫，5，pp. 13-22，松下久道，高橋良平，小原淨之介，岩橋　徹，井上英二．昭和 31.2

(2)　杵島層群の研究（その１），針尾島・早岐・有田周辺の岩相と地質構造について．地質学雑誌，63，739，pp. 207-216，高橋良平，植田芳郎，岩橋　徹．昭和 32.4

(3)　福岡市の地質並びに地下水．報告No.1，pp. 1-34，付図：1／5万 福岡市の地質図．山崎光夫，松

下久道，浦田英夫，唐木田芳文，山本博達，小原淨之介，岩橋　徹．昭和33.3
(4) 天草下島における白亜系古第三系の境界について．日本白亜系古第三系の境界問題，日本地質学会討論資料　特集(1)．有孔虫，10，pp．30-41，松下久道，岩橋　徹，他6名．昭和34.5
(5) 小倉炭田の層序と地質構造．地質学雑誌，65，768，pp．528-536．岩橋　徹，小原淨之介．昭和34.9
(6) 長崎県北松浦郡九十九島・佐々地区の杵島層群の層序と地質構造，“佐世保炭田”の研究（その１）．九州大学理学部研究報告地質学之部，5，1，pp．1-13．昭和35.3
(7) 北松地域およびその周辺にみられる八ノ久保砂礫層（新称）について，“佐世保炭田”の研究（その２）．九州大学理学部研究報告　地質学之部，5，2，pp．80-97．昭和36.2
(8) 佐世保炭田に分布する相ノ浦層群の綜括的層序・岩相変化・堆積状況について，“佐世保炭田”の研究（その３）．九州大学理学部研究報告　地質学之部，5，3，pp．111-128．昭和36..3
(9) Study of the Sasebo Coal Field, Northwestern Kyushu, Japan. Part 1. Stratigraphy of the Tertiary Sasebo Group. Memoirs of the Faculty of Science, Kyushu University, Series D, Geology, Vol.XI, No.3, pp. 419-439, text-fig. 1-4, T. IWAHASHI. December, 1961
(10) “佐世保炭田”炭の石炭化度の地質学的研究．九州大学理学部研究報告　地質学之部，6，2，pp．95-134．昭和38.1
(11) 岳下炭の分析値の地質学的解析，“佐世保炭田”炭の地質学的研究．九州大学理学部研究報告　地質学之部，7，1，pp．103-112．昭和38.1
(12) 天竜川中流域の地すべり危険地．地すべり危険地域の予防治山的地質調査報告書，昭和41年度崩壊危険地調査報告書，pp .3-25．昭和41.12
(13) 伊豆半島の第三系．静岡大学地学研究報告，1，1，pp．5-9．伊藤通玄，岩橋　徹，鮫島輝彦，土　隆一．昭和42.12
(14) 安倍川上流梅ケ島温泉の地質と災害について．静岡大学地学研究報告，1，1，pp．17-34．昭和42.12
(15) 佐久間地域の地すべりとその特徴．静岡大学教育学部研究報告（自然科学篇），18，pp．84-102．昭和43.2
(16) 山地災害危険地域の予防治山的調査報告書，昭和42年度山地災害危険地調査事業，pp．43-137のうち36p分．昭和43.3
(17) 下賀茂地区の地質調査，毛倉野地区の地質．伊豆半島の地熱開発に関する基礎調査報告書，pp．53-56，pp．79-84．昭和43.7
(18) 伊豆半島の地質に関する諸問題．日本地質学会第75年秋季学術大会総合討論会資料“フォッサ・マグナ”pp．87-92．鮫島輝彦，岩橋　徹，土　隆一，伊藤通玄，黒田　直．昭和43.9
(19) 下賀茂温泉の地熱構造．静岡大学地学研究報告，2，1，pp．31-36．鮫島輝彦，岩橋　徹．昭和45.5
(20) 佐賀県武雄市付近の地質構造と火成岩との関係．静岡大学地学研究報告，2，1，pp．55-63．昭和45.5
(21) 静岡県由比町の地すべり・崩壊についての地質学的考察．文部省科学研究費（特定研究）中部地区における自然災害の実態と予測に関する総合研究 第2回シンポジウム論文集 pp．17-20．昭和45.12
(22) 20万分の1 静岡県表層地質図，土地分類図22.「静岡県」，桐谷文雄，岩橋　徹 他7名．昭和46.3
(23) 静岡県由比地域の地すべりと山崩れの地質学的背景．松下久道教授記念論文集，第2部，pp．433-442．昭和46.12
(24) 国道150号大崩海岸における最近の崩災について．文部省科学研究費(特定研究)中部地区における自然災害の実態と予測に関する総合研究 第3回シンポジウム論文集，pp．67-74．昭和47.2

(25) 大崩海岸道路における最近の大崩壊について．静岡大学教育学部研究報告(自然科学篇) 22, pp. 15-18. 岩橋　徹，木宮一邦．昭和47．3
(26) 静岡市石部大崩海岸道路の大崩壊の実態•要因および防災上の問題．静岡大学地学研究報告，3, 1, pp. 13-29. 岩橋　徹，木宮一邦．昭和47.9
(27) 大崩海岸崩壊地岩石試験結果と考察．静岡大学地学研究報告，3, 1, pp. 31-34. 昭和47.9
(28) 静岡県大崩海岸の災害について．第9回災害科学総合シンポジウム論文集，pp. 179-182. 岩橋　徹，徳山　明，木宮一邦，土　隆一，黒田　直，鮫島輝彦，伊藤通玄．昭和47.10
(29) フォッサマグナ南部の地学．Field Work 1973, pp. 38-52. 静岡教育出版社．昭和48.8
(30) フォッサマグナ南部の地すべり機構の地質的考察．第10回災害科学総合シンポジウム論文集，119, pp. 315-318. 昭和48.10
(31) 1974年伊豆半島沖地震の災害の実態について，1974年伊豆半島沖地震－地震災害報告 第1報－．静岡地学，27, pp. 31-33. 昭和49.6
(32) 突発災害昭和49年7月集中豪雨によるフォッサマグナ南部の地盤災害．第11回災害科学総合シンポジウム講演論文集，112, pp. 225-226. 岩橋　徹，徳山　明，木宮一邦，土　隆一，黒田　直，大塚謙一．昭和49.10
(33) 構造物の被災状況と地盤の地質から見た伊豆半島沖地震災害．1974年伊豆半島沖地震災害調査研究報告，14. pp. 91-95. 昭和50.3
(34) 構造物の被災状況と地盤の地質から見た地震災害．1974年伊豆半島沖地震とその災害－地質学的調査報告書－，4, pp. 11-14. 昭和50.3
(35) フォッサマグナ南部の災害．昭和49年7月集中豪雨災害の調査研究総合報告，Ⅲ-5, p. 43. 昭和50.3
(36) 構造物の被災状況と地盤の地質から見た伊豆半島沖地震災害．静岡大学地球科学研究報告 1, pp. 39-46, 昭和50.10
(37) 1978年伊豆半島近海の地震により現れた地震断層について．中部地区災害科学シンポジウム講演論文集，pp. 1-4. 木宮一邦，岩橋　徹，吉田鎮男．昭和53.2
(38) 降雨量記録から見た“七夕豪雨”の実態と山くずれとの関係．自然災害科学資料解析研究 5, pp. 45-56. 木宮一邦，岩橋　徹．昭和53.3
(39) 1978年伊豆大島近海の地震に伴う震害の地質学的考察．静岡大学地球科学研究報告，3, pp.45-64. 徳山　明，岩橋　徹，木宮一邦，半田孝司，吉田鎮男，大塚謙一．昭和53.3
(40) 1978年伊豆大島近海の地震による河津町見高入谷地区の崩壊型地すべりについて．1978年伊豆大島近海の地震による災害の総合的調査研究報告，19, pp. 34-36. 昭和53.3
(41) 自然災害多発地「伊豆」と地質との関係を探る．Field Work 1978, pp. 73-121. 静岡教育出版社．昭和53.7
(42) 1978年伊豆大島近海の地震による河津町見高入谷大池周辺の地すべり群の発生機構．第15回自然災害科学会総合シンポジウム講演論文集，pp. 63-64. 昭和53.10
(43) Map showing Landsat imagery Alignment in Fairfax County Virginia. U.S.G.S., Open-file Reports 78-525, 1 plate, scale 1:48,000. IWAHASHI, Toru and T. L. HEIRONIMUS. 1978.
(44) 地震対策調査，静岡県の地すべり危険箇所，急傾斜地崩壊危険箇所，山崩れ危険箇所（解説書）．pp. 11-33, を分担執筆．土 隆一，岩橋 徹，北川光雄．昭和54.4
(45) 人工衛星からみた中部地方，自然と人間のいとなみを探る．Field Work 1979, pp. 1-61. 静岡教育出版社．昭和54.7

(46) ランドサット画像による浅間火山の地質解析．日本測量学会秋季学術講演会発表論文集，4-1，pp. 39-42. 昭和54.9

(47) 中部地方西部の地震断層と活断層，その地質と地形変位を探る．Field Work 1980，pp. 49-84，続編　pp.1-9. 静岡教育出版社．昭和55.7

(48) リモートセンシングによる地質及び地質構造解析．昭和54年度ランドサットデータ研究解析成果概要報告集，pp. 69-70. 昭和55.11

(49) 光波測量による地すべり移動計測と問題点．昭和55年度自然災害科学中部地区シンポジウム論文集，p.10.（自然災害科学総合研究班中部地区部会），岩橋 徹，半田孝司，牧田伸明．昭和55.11

(50) リモートセンシングによる東海地域の活断層の地質解析．昭和55年度ランドサットデータ研究解析成果概要報告集，pp. 65-66. 昭和56.1

(51) クリープと斜面災害，静岡県藤枝市烏帽子形山の例．第3回自然災害科学会学術講演会要旨集，p.9. 岩橋　徹，半田孝司．昭和56.7

(52) 地すべり対策工施工後の微小移動計測と考察．第18回自然災害科学会総合シンポジウム講演要旨集，p.198. 岩橋　徹，半田孝司．昭和56.10

(53) RBVによる中部地方の地質構造解析．昭和56年度ランドサットデータ研究解析成果概要報告集，pp. 65-66. 昭和57.11

(54) 中国大陸乾燥地域•周縁部の地質解析．昭和57年度ランドサットデータ研究解析成果概要報告集，pp. 61-62. 昭和58.11

(55) 中国大陸砂漠地域とその周辺域の地質解析．昭和58年度ランドサットデータ研究解析成果概要報告集，p. 46-47. 昭和60.3

(56) 光波測距儀による地すべり地の微小移動の計測，静岡県藤枝市烏帽子形山地すべりの例．静岡大学教育学部研究報告(自然科学篇)，35，pp. 53-66. 岩橋　徹，半田孝司，牧田伸明，山村敏正．昭和60.3

(57) 中国大陸乾燥地域とその周縁部の地質解析，ランドサットＭＳＳ画像を利用して．ランドサットデータ研究解析成果論文集(その１)，pp. 177-186. 昭和61.3

(58) 中国大陸砂漠地域とその周辺域の環境解析，ランドサットＭＳＳ画像を利用して．ランドサットデータ研究解析成果論文集(その２)，pp. 141-143. 昭和61.3

(59) 地震誘因の崩壊型高速地すべりの予測についての基礎研究，その1 伊豆大島近海の地震誘因の地すべりのケース•スタディ．静岡大学教育学部研究報告(自然科学篇)，38. pp. 41-59，昭和 63.3

(60) 理科教材研究実験書1988年度版，第5章，「地学」pp. 65-90. 理科教材研究テキスト執筆者グループ代表，八木達彦．平成1.3

(61) 理科教材研究実験書改訂版．1990年度版，第5章，「地学」pp. 65-90. 理科教材研究テキスト執筆者グループ代表，八木達彦．平成2.3

(62) 丹那地震断層付近のガンマ線量の時空的変化，静岡大学教育学部研究報告(自然科学編)，40，pp. 13-26，岩橋　徹，遠藤　学．平成2.3

(63) 大野地震断層のガンマ線計測調査，静岡地学，61，pp. 27-34，岩橋　徹，大村隆宏．平成2.6

(64) 三波川帯蛇紋岩分布地における地すべり崩土の特性，－静岡県引佐町渋川付近の例－，静岡大学教育学部研究報告(自然科学篇)，41，pp. 1-16，岩橋　徹，西尾政芳．平成3.3